

京都教区の宣教司牧評議会における「議案提出」について

2025 年 9 月 26 日

✠パウロ大塚喜直

京都教区の宣教司牧評議会における「議案提出」の意味と、「議案」とは何か、提出方法について、説明します。

1. 宣教司牧評議会への「議案提出」の意味

- ・ 京都教区の宣教司牧評議会の規約には、(目的) 第 3 条で、次のように記されています。
「教区評議会」は、『教区司教の権威のもとに、教区における宣教司牧活動に関する事柄を研究・検討し、それについての実証的な結論を提示することをその目的とする』(教会法 511 条)。
- ・ したがって、宣教司牧評議会は、教区全体の宣教と司牧の方向性を協議・共有する場です。
議案提出は、以下のような意味を持っています。
 - 教区全体の課題や提案を共有するための正式な手続き
 - 小教区・ブロック・委員会などの現場からの声を、教区レベルで検討・判断してもらうための橋渡し
 - 教会共同体の一致と協働を促進するための対話の土台
- ・ 提出された議案は、評議会で審議され、必要に応じて教区の方針や計画に反映されます。
つまり、議案提出は「教区の歩みをともに形づくる参加のかたち」です。

2. 議案の提出

- ・ 「議案」とは、会議体において審議・検討してほしい内容を明文化した提案文書です。
京都教区の宣教司牧の観点では、以下のような内容が議案となり得ます：
 - 教区全体で取り組むべきテーマの提案（例：災害対応、外国人信徒支援）
 - 宣教活動や司牧方針に関する提案（例：若者向けの新しい取り組み）
 - 小教区やブロックでの課題の共有（例：外国籍信徒の参加、財政問題）
 - 規約や制度の見直しに関する提案（例：評議会の構成や役割の再検討）
- ・ 議案は、小教区評議会、またはブロック会議で審議されたもので、議案書には、具体的な背景・目的・提案内容・期待される効果などを簡潔に記します。

議案提出は単なる事務的な行為ではなく、「ともに歩む教会（シノドスの教会）」の実践でもあります。信徒・司祭・修道者がそれぞれの視点から声を上げ、祈りと分かち合いの中で教区の方針性を築いていく、その営みこそが、福音宣教の共同体としての教会の姿です。

どうか、積極的に議案を提出してください。

以上。